

1 医療の質の向上

■ 高度専門医療等にかかる診療機能の充実 ※[]内は前年同期

【急性期・総合医療センター】

- ・SCU、CCU等の整備・再編による救命救急センター(30床)の運用開始(4月)
- ・障害者医療・リハビリテーション医療部門(障害者外来、障害者歯科、リハビリテーション科)の開設(4月)
- ・がん相談支援C設置や外来化学療法室の整備など、地域がん診療連携拠点病院としての機能を強化(20.4月指定更新)

【呼吸器・アレルギー医療センター】

- ・肺がん等の呼吸器疾患に対する診断・予防の充実
 - * 肺がん早期発見のため蛍光気管支鏡の導入、禁煙学会認定看護師による禁煙相談コーナーの設置(11月)
- ・合併症を有する小児結核患者に対するモデル病室の整備(20.3月)

【精神医療センター】

- ・医療観察法による入院受入れ(9月専用病床5床開設。20.2月現在5人受入れ)
- ・松心園の自閉症確定診断待機患児対策の強化として常勤医師2人増員。*(4~1月)確定診断件数293[231]件
- ・緊急措置入院の受入れを24時間体制で開始(4月)

【成人病センター】

- ・難治性がん患者に対する集学的治療の提供
 - * (4~1月)手術641[721]件、放射線治療22,796[19,292]件、外来化学療法室利用51.5[44.5]件/月
- ・都道府県がん診療連携拠点病院の取組推進
 - * がんの情報提供・相談支援、地域がん診療連携拠点病院の看護師等研修、「府がん診療連携協議会」の設置など

【母子保健総合医療センター】

- ・国立病院機構大阪南医療センターとの連携等による手術体制の拡充
 - * (4~1月)手術3,001[2,939]件、うち連携分46件 参考(18.12月~19.3月)5件
- ・OGCS(産婦人科診療相互援助システム)等の基幹病院として、夜間の重症妊婦等の緊急搬送の調整業務を強化(11月)

■ 病院機能の向上 ※[]内は前年同期

- ・病院機能評価の受審：成人病Cが(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価(Ver.5.0)を受審(2月)
- ・電子カルテの導入：急性期Cでクリニカルパスを軸とした電子カルテの運用開始(9月)
- ・診療データの収集等：5病院の診療機能を客観的に表す臨床評価指標の収集・公表(12月HP公表)
- ・治験の推進：成人病C・母子Cが「治験拠点医療機関」(全国30施設)に指定(7月)

■ 安全、安心な医療

- 〈母子C〉妊婦の服薬に関する相談に対して専門スタッフが説明を行う「妊娠と薬」外来の開始(5月)
- ・医療事故公表基準に基づき、上半期発生状況をHPで公表(10月。下半期分は4月予定)
- ・医療安全活動のリーダー養成を目的とした5病院合同研修会の開催(20年3月)

2 患者サービスの向上

■ 待ち時間の改善・アメニティの向上

昨年度の病院顧客満足度調査の結果等を踏まえ、各病院の実状に応じた取組を実施。

- 〈急性期C〉患者が待ち時間を有効に使えるように診察順を示す患者案内表示板の稼働(5月)
 - コンビニ誘致の取組(20年度オープン予定)や、特別室を改修しTV・保冷庫等付の床頭台を設置(20年2月)
- 〈呼吸器C〉紹介患者に対する電話予約受付による初診予約制度の拡大(6月)
 - 学生ボランティアによる小児病棟廊下壁面等へのホスピタルアート(20年2月)
- 〈精神C〉医師の処方箋作成を効率化する簡易処方箋発行システムの本格稼働(4月)
- 〈成人病C〉需要の多い診療科の手術枠拡大など手術枠の再編(10月)
- 〈母子C〉予約のある初診患者受付及び検査科受付の開始時刻15分繰上げ(8:45~)(11月)
 - 病院給食の選択メニューを母性棟入院患者へ実施(20年2月)

■ チーム医療・患者サポートの充実

- 〈急性期C〉診療科が連携し専門性の高い包括的診療を行う専門センターを設置(6月。脳卒中C、心臓血管C、人工関節C)
- 〈呼吸器C〉包括的呼吸ケア支援を行う医師、看護師その他関係職種による呼吸サポートチームの活動開始(6月)
- 〈精神C〉医師、看護師その他関係職種による「家族心理教育」の試行開始(4月)
- 〈成人病C〉がん看護の専門・認定看護師が専門性を活かしたサポートを行う「看護外来」の開始(9月、7コース)

3 地域との連携・貢献

■ 連携の体制づくり

- 〈急性期C〉地域医療機関との連携強化のため、地域医療連携室を設置
- 〈母子C〉初診予約受け、紹介元への受診、未受診等の報告などを行う地域医療連携室の開設(10月)

■ 地域連携による患者ケアの充実 ※[]内は前年同期

- 〈精神C〉在宅医療室を中心とした連携強化による訪問看護の拡充
 - * 実施件数(4~1月)3,233[2,889]件
- 〈成人病C〉地域がん診療連携拠点病院の緩和ケアチーム等との連携等を図る「第1回大阪府緩和ケアネットワーク」の開催(11月)
- 〈母子C〉在宅医療支援室の体制強化による在宅療養指導の拡充等
 - * 専任医師(非)1人配置(4月)、指導管理料算定実患者数(4~1月)594 [566]人

■ 地域への支援・情報発信

- 〈急性期C〉第11ブロック地域医療連携懇話会において最新の医療についての講演会等を実施
- 〈成人病C〉市町村のがん検診担当者向けがん検診の精度管理に関する研修会の開催(10月、27市町村・9保健所)
 - ・5病院合同「府民公開講座」の開催
 - * 9月13日、テーマ「がん治療における先進的取組」、参加約450人

4 人材の確保・育成

■ 医師等の確保

- 〈急性期C〉レジデントについて、母子C、呼吸器Cや、阪大等と協力し病院間でローテートする小児科研修プログラムを作成し募集。
 - * 研修医募集人数を15人から20人に拡大
- 〈精神C〉精神保健指定医の資格取得(7月1人、計11人)
- 〈成人病C〉臨床研修医受入プログラムの全面改訂によるレジデントの確保(前年同期比6人増)
- 〈母子C〉院内託児時間の延長(18:00⇒21:00)

■ 教育研修の充実 ※[]内は前年同期

- 〈呼吸器C〉呼吸器外科研修医の研修プログラムの作成(6月)
- 〈成人病C〉内視鏡教育研修センターでESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)など研修ニーズの高い高度な技術の研修
 - * 研修生受入状況(4~1月)1日当たり8.4[7.3]人、うち成人病C以外2人
- ・認定・専門看護師の資格取得に向けた研修
 - * 長期自主研修制度を利用した資格取得(1月末) (急性)認2人(呼吸)認2人・専2人(成人)認1人(母子)認3人・専1人

■ 人材、技術の交流

- ・病院間の人材活用等
 - 〈急性期C〉19年4月採用の成人病Cの臨床工学技師1人を臨床研修で受入れ
 - 〈成人病C〉急性期Cで放射線治療科の医師が不足した時期に医師を応援派遣
- ・医療技術等の国際交流
 - 〈成人病C〉外国の最先端の医療技術等を取り入れ等のため、「第1回成人病センター国際フォーラム」開催。
 - * 10月6日、テーマ「食道・胃・肝胆膵がんの診断治療の革新」、参加204人

5 業務運営の改善

■ 効率的・効果的な業務運営

- ・事務部門の再構築(アウトソーシング等)によるスリムで効率的な業務執行体制(18年度と比べ9人削減)
- ・法人採用(フロン)職員の採用(3人)、医事業務に関する民間専門職員の登用(2人)
- ・18年度に導入した医師の診療科別評価、MITSシステムなど医療スタッフにインセンティブを与える制度の活用

■ 収入確保の取組

- ・診療報酬請求精度調査の実施、病病・病診連携等による患者数確保、診療報酬上の上位基準取得等による診療単価の向上
- ・債権管理規程など未収金回収に係る手続の整備、未収金回収事業者の決定(20年2月)

■ 経費節減の取組

- ・SPDの材料費削減効果を高めるため、医療材料の同種同効品の集約化を推進。ESCO事業の活用等による光熱水費の節減
- ・CM(コンストラクションマネジメント)会社による改修工事のモデル実施